

令和6年度第2回佐賀市上下水道事業経営審議会 議事録

- ◆ 開催日時
令和6年11月5日(火) 14:00～15:40
- ◆ 開催場所
佐賀市上下水道局5階 大会議室
- ◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は会長、○は副会長
池田敦子、○合六丈晴、古賀醸治、坂井俊彦、◎角田幸太郎、福田忠利、水町良雄、
溝上良雄、吉村純子
- ◆ 欠席委員（敬称略）
猪八重拓郎
- ◆ 事務局
中島副局長兼水循環部長兼下水プロジェクト推進部長、佐尾下水プロジェクト推進部
副部長、一ノ宮副理事兼総務課長、栗原総務課参事兼副課長兼企画係長、重永財務課長、
北村業務課長、松永水道工務課長、牟田浄水課長、副島浄水課参事、田中下水道工務課
長、江口下水道施設課長、溝口給排水設備課長、野田総務課主査、廣瀬総務課主査 外
- ◆ 傍聴者
1名
- ◆ 議事要旨
 1. 開会
(司会による挨拶)
 2. 佐賀市上下水道事業管理者職務代理者あいさつ
○職務代理者
本日は、お忙しい中、第2回佐賀市上下水道事業経営審議会にご出席いただき、誠に
ありがとうございます。
今回は、これまで上下水道局が行ってきた経営改善に関する取組や、今後の事業計画
などをお示しいたしますので、前回同様にご意見をいただきますよう、お願いいたしま
す。

3. 議事

○会長

議題1「下水道事業のあり方について」の説明をお願いします。

≪事務局より「議題1」の説明 約20分程度≫

○会長

県内各市町がいつ頃使用料を改定したのか、情報はないか。

○事務局

平成22年・佐賀市(11.2%)、平成24年・有田町(30.0%)、平成26年・唐津市(13.9%)
平成27年・多久市(23.4%)、令和元年・唐津市(16.9%)、令和2年・多久市(20.0%)
令和5年・小城市(20.0%)

○会長

令和8年頃から減収傾向の見込みとなることは、いつ頃から認識していたのか。

○事務局

平成24年の上下水道事業統合以来、経営状況については、決算の度に財政計画との開きを確認してきた。最近の物価状況もあり状況悪化が計画よりも早まったと言える。令和4年ぐらいからは、このような傾向にあることを認識していた。

○委員

市営浄化槽の使用料は、下水道使用料とは別の体系か。

○事務局

下水道使用料は、基本使用料と従量使用料の二部制となっているが、浄化槽は人槽ごとの使用料体系となっている。

○委員

下水道事業会計においては一般財源を組み入れないでやっていきたいということだと思うが、浄化槽についても同じ考えか。

○事務局

下水道事業は公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水、これらを集合処理といい、以前は特別会計で事業を行っていた。市営浄化槽事業も特別会計で事業を行って

いた。平成24年よりも前の特別会計当時は、一般会計からの繰り入れを行っていた。今は、赤字による繰り入れは行っていない。

○会長

今回、下水道使用料を改定する場合、浄化槽使用料も連動して改定されるのか。

○事務局

浄化槽使用料は下水道会計の中でも総収入の4%程度を占めている。今は集合処理の使用料を集中的に審議いただいているが、浄化槽使用料についても、できるだけ集合処理に近づけた形で改定を行っていきたいと考えている。

○委員

平成22年に改定するまでは、数年に一度改定をしている。平成22年からは14年間改定していないが、これだけの期間が空いたのはどうしてか。

○事務局

供用開始当初は処理場やポンプ場を作るため、かなりの金額がかかっている。一方で計画的な整備が終わっておらず、下水道利用者が一部の方にとどまるため、普及率を乗じた形で使用料を算定していた。このため、計画的な整備が進むにつれて、使用料を上げてきた経緯がある。

平成24年から上下水道局で効率的な経営を行うようになり、また、総務省からの通知により経営戦略を作成し、中長期的な財政計画を立てて経営を行っており、今まで収支を見ながらやってきている。

○委員

事業のハード面・施設について、一般的に未来永劫使用できるわけではなく、老朽化に対していろいろ補修しながら使ってはいくが、どこかで交換となる。その時に向けた費用の計画・準備などはどうか。

○事務局

下水道施設の法定耐用年数が50年だが、できるだけ長く使っていこうということで、目標耐用年数を70年程度として、計画を立てている。ストックマネジメントという国の補助メニューを活用し、いつまでにどの施設を改築するという計画を立てて、費用がどれくらいかかるかを見ている。

○委員

人口減や節水による使用料収入の減少ということだが、我々生活していく中で、節水自体はSDGsの観点からも当たり前のことだが、節水すると収入が減少してしまうということが、一般市民からすると考えるところがある。一方で、物価高騰も実感しており、人口減・節水と合わせて影響していると考えてよいか。

○事務局

使用料収入は、水道メーターの検針を基にいただいている。節水機器が普及し、環境面として非常にいいことであるが、我々の経営からいくと影響がある。

費用についても、物価高騰によって電気代・薬品費など影響があると考えている。

○委員

人口減少のデータは何を基に出しているのか。

○事務局

国立社会保障人口問題研究所のデータ。

○委員

来年（令和7年）は増える？

○事務局

こちらは収入の見込みだが、近年、水道料金は海苔の不作で水の使用量が減ったりして、落ち込みを見せていた。今後は人口減、また世帯あたりの人数も減っているなので、水道・下水道両方の収入も減っていく見込み。

○委員

一世帯あたりの使用料の減はどうやって算定しているのか。

○事務局

コロナや海苔不作などのイレギュラーな要素、そして人口減少や一世帯あたりの汚水使用料の原価などを加味して算定している。

○委員

平均使用量が15立方メートルの標準世帯というのは、全世帯数の何%程度か。

○事務局

（標準世帯の割合について）お調べして、後ほどお示しする。

○委員

官民連携とは、どのような事を想定しているのか。

○事務局

国から、民間の力を活用した手法を取り入れるよう指導があつている。佐賀市においても有用かどうか、調査を行っている。その結果によって、どういった方法があるかを模索している。

○委員

令和3・4年の投資額が、平成30年などと比較すると増えているが、施設維持費以外の要因があるのか？

○事務局

令和2年の後半から5年まで、下水浄化センターの施設の老朽化に伴う機械の更新を集中的に行ったことにより、事業費が増大したもの。また、汚水ポンプの故障による更新なども重なったこともある。

○委員

平成22年が最後の改定ということで、平成21年ごろにリーマンショックがあり、そのあとなかなか改定できなかつたのではないか。今の収支状況を見ると、何か手を打たないといけない。人口減少がまず一番の問題で、このような状況でいくと、企業の立場からしたら、佐賀市から出ることも考えられる。

○委員

佐賀市の使用料は県内で非常に低い位置にある。結果、効率的にやられたんだろうと思う。では、今後どう事業を進めていくのが大きな課題である。現状のまま事業を進めた場合、利益や資金が大きく減少し、経営状況は悪化する。料金改定をある程度やっていかないと、事業の継続は非常に厳しくなる。

例えば、使用料をこのくらい改定したら状況がどうなるかシミュレーションはされているか。いくつかのパターンを示してもらおうと参考になるかと思う。

○会長

ひとまず、改定するかどうかは別としてシミュレーションを作ってもらうことに対して、反対の方はいらっしゃいますか。

(反対との声はなし)

では、作ってもらってよいか。

○事務局

次回、お示ししたい。

○委員

接続促進の強化とあるが、今後どのくらいの可能性があるのか。また、業務委託を今後どのくらいまで進めるのか。どこまで民間の活力を利用するか、考え方を示さないと市民も納得しないと思われる。

○事務局

下水道の接続指導は、全ての方に接続していただくことが前提だが、なかなかそうもいかない。佐賀市の接続率・水洗化率は大体91%程度。九州の県庁所在地や主要都市で人口が佐賀市より密集しているところで、大体9割後半となっている。佐賀市は平成30年度に面整備を終えてから5、6年経過しているが、少しずつ接続率は上がっている。もうしばらくすると95%ほどに届くと思われる。今後も力を入れてやっていきたい。

○事務局

職員の効率化については、上下水道組織統合前の平成18年から21年にかけて、122名ほどいた職員から53名を削減させて、窓口業務を委託に出し、スリム化をしながら業務の見直しを図ってきた。その後の組織統合で、業務・総務・財務部門などの上下一緒にできる部署は一つの課にしてきた。支所の再編については、支所で行っていた業務を局に集約してきた。

今後については、維持管理にも人が関わらないといけないので、業務量をしっかり把握し効率化できるものはしていないといけないと考えている。

○会長

第1回の資料でも、職員分布を見てみると、一時期職員採用を見送った時期があり、若手の方が少ない状況である。

同じく第1回の資料で、下水道の普及状況として令和5年度で93.19%となっており、5,700世帯が接続できていない状況である。

○委員

平成22年から14年間改定していないということだが、14年ぶりに改定するというよりも、3年とか5年で少しずつ改定していった方が良かったのではないかと思います。

う。

また、低所得者や非課税世帯の方への支援策があればお聞かせ願いたい。

○事務局

今のところ、低所得者の方に向けた、例えば割り引きしたり減免したりといった制度は持ち合わせていない。ご自宅で漏水があったり、また災害時などには特別減免を行うことはある。

お支払いが滞ってしまった場合は、分割納付などで対応している。

○委員

上下水道局としては、いろんなシミュレーションを持っていると思う。どこまで踏み込んだ提言とできるかは難しいところだが、いくつかのパターンを見せていただいて、その中で話し合っていければと思う。

○委員

中長期的な経営期間を10年間としたのはなぜか。主な事業では、令和6年から10年までの5年間となっている。10年間となると物価上昇率もかなり違ってくる。

○事務局

今回シミュレーションをするにあたり、総務省が公営企業の経営について示している経営戦略の策定、また改定のガイドラインといったところで、計画期間は事業の特性・個々の団体の状況・施設の老朽化などを踏まえ、10年以上の合理的な期間を設定する必要があると記載している。また、国土交通省では、現在我々も作成している「水道ビジョン」において、当面の目標として概ね10年ということを示していることから、財政のシミュレーションを10年間としている。

ただ、あくまでも財政のシミュレーションを10年間としているが、使用料の算定期間としては、3年から5年といった期間で考えていきたい。

○委員

今後のシミュレーションを数字で出していただけるということで、その数字を見たいという気持ちが強くある。議会での検討事項になるので、どうかという意見も良くわかる。しかし、我々委員が判断するには数字がきっちりしたものでないと判断しにくいので、そのまま出してほしい。

○委員

具体的なシミュレーションを出してほしいが、今後の物価がどうなるかわからない

ので、審議会の考え以上に（使用料を）上げるような議論にならないかを心配している。下水道使用料は通増制なのか。単価が均一というところはないのか。

○事務局

あるにはあるが、少数派である。通増制となったのは、水をたくさん使うところは下水道もたくさん流すことになるので、それだけ施設自体を使用するであろうという考え方から、使うほどに少しずつ単価を上げるといった設定になっていると考えている。

○委員

シミュレーションを出してもらうことは、別に使用料を上げる上げないといった話をしたいわけではなくて、参考として皆さんがどう見てどう感じるか、話し合いが進めばという思いがある。また、財政状況を見ると、まず利益が令和8年度に赤字化する、そして令和10年度で資金が赤字化するということ。民間企業だとこの時点で倒産となる。そこまで引き延ばしたら、下水道事業が無くなる。使用料を上げずにどうやって事業を立て直すのか。

今令和6年度だが、令和8年度まであと1年。そこまでいろいろ先送りした場合、お伺いしたいが、例えば使用料改定しないとした場合、それ以外の方法でどうやって資金繰りするか、また赤字を黒字化することは可能なのか。民間企業だと自転車操業でやりくりするかと思うが、公営企業だと税金が投入され、一般会計の市民の税金を使うということになる。下水道の場合は、受益者が自分たちが使う施設に対してお金を払うという負担の公平性が求められる。

そういったことから、シミュレーションを見せてもらって、皆さんと意識の共有ができればと思う。

○委員

上下水道局の事業が独立採算と聞き、今まで何となく税金が使われているイメージだった。

今日の話聞いて、使用料が上がることは仕方がないと思う。

また、例えば小学校で出前講座のような機会があれば、今の小学生は本当によく学んでいる。SDGsの観点など、また適正な価格で購入をしてそれを使うといった勉強もしていて、大事なことだと考えます。

○委員

赤字に転落して資金がなくなった場合、下水道事業はどうなるのか。

○事務局

破綻してしまう。そうなる前に、民間の知恵や資金を活用することを考えなければいけないと思っているが、本当に佐賀市にとって有利に働くのかをしっかりと見据えていきたい。

○委員

電気、水道など公共のインフラで生活に密着した部分は、やはり公的なところにやってもらいたという思いがある。そういったうえで、もう一回、どうするかを話し合いたい。

○会長

それでは、そろそろまとめたい。

我々委員の要望として、使用料改定案・シミュレーションを次回の審議会に出してほしい。

他に意見等が無ければ、事務局にお返りする。

○事務局

角田会長、会議を円滑に進行していただきありがとうございました。また、委員の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

《次回以降の日程 及び事務連絡》

○事務局

それでは、これをもちまして、令和6年度第2回佐賀市上下水道事業経営審議会を終了します。

本日はありがとうございました。